

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平3-4654

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成3年(1991)2月6日

E 04 F 13/08
E 04 B 1/70
E 04 F 13/14

L 7023-2E
D 2118-2E
C 7023-2E
102

(全3頁)

⑮ 考案の名称 外装材の取り付け構造

⑯ 実 願 昭59-24751

⑰ 公 開 昭60-137032

⑱ 出 願 昭59(1984)2月23日

⑲ 昭60(1985)9月11日

⑳ 考 案 者 浦 久 保 圭 司 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

㉑ 考 案 者 小 川 誠 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

㉒ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地

㉓ 代 理 人 弁理士 石田 長七

審 査 官 下 村 周 三

㉔ 参 考 文 献 実開 昭48-65023 (JP, U) 実開 昭56-100628 (JP, U)

1

2

① 実用新案登録請求の範囲

外壁本体の外面に複数枚の外装材を上位置する外装材の下部内面が下に位置する外装材の上部外面に重なるように下見張り状に張り、上に位置する外装材と下に位置する外装材とを重ねる部分を粗面にすると共に外装材の上部外面に傾斜面を設けて成る外装材の取り付け構造。

考案の詳細な説明

〔技術分野〕

本考案は外壁本体の外面により下見張り状に張って外装材を取り付ける構造に関するものである。

〔背景技術〕

従来、外装材をより下見張り状に張った場合上下に隣合う外装材の重ね合わせ面同士を密着させていた。このため外装材の外側と外装材の裏面側とが遮断されて外装材の裏面側に通気ができないという欠点があった。

〔考案の目的〕

本考案は叙述の点に鑑みてなされたものであつて、本考案の目的とするところは、重ね合わせ面を単に重ね合わせても通気できて外装材と外壁本体の間にも通気できる外装材の取り付け構造を提供するにある。

〔考案の開示〕

本考案外装材の取り付け構造は、外壁本体1の

外面に複数枚の外装材Aを上位置する外装材Aの下部内面が下に位置する外装材Aの上部外面に重なるようにより下見張り状に張り、上に位置する外装材Aと下に位置する外装材Aとを重ねる部分を粗面4にすると共に外装材Aの上部外面に傾斜面9を設けたものであつて、上述のように構成することにより従来例の欠点を解決したものである。

以下本考案を実施例により詳述する。Aは外装材であつて、外装材本体2の外面上部の重ね合わせ面3を粗面4にしてある。外装材本体2は石綿スレート、珪酸カルシウム板、石膏セメント板などにて形成されている。外装材本体2の外面上部には傾斜面9を切欠いてあり、その下の重ね合わせ面3の下には水切凹部5を凹設してある。外装材本体2の外面の下部には釘打ち用の溝6を設けてあり、外装材本体2の下部には水切縁7を有しており、水切縁7の内面側には切欠8を設けてある。また上記重ね合わせ面3を粗面4に形成するにあつては、重ね合わせ面3に接着剤11を塗布し接着剤11上に砂のような粒状の骨材14を散布する。かかる粒状の骨材14を散布する代わりに繊維材を植毛してもよい。

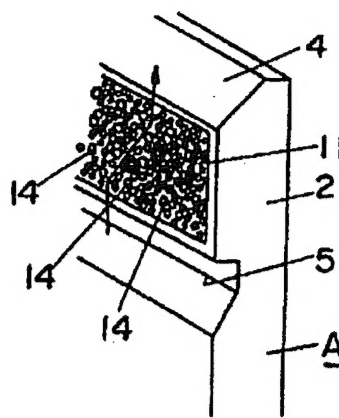
しかして上記のように構成せる外装材Aを外壁本体1の外面に取り付けるにあつては次のように施工される。外壁本体1は柱間にグラスウール

4

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例の施工状態の斜視図、第2図は同上の拡大断面図、第3図は同上の重ね合わせ部の斜視図、第4図は同上の粗面を示す斜視図であつて、Aは外装材、1は外壁本体、2は外装材本体、3は重ね合わせ面、4は粗面、9は傾斜面である。

第4図



第2図

